

遠藤農園家族協働経営拡大プラン

伯耆町
遠藤 光明

事業実施方針

【1】 生産、経営の現状、問題等

①生産経営の現状

伯耆町 地区等で水田 22.5 ha (うち 水稻 21 ha、飼料用稻 1.5 ha)、和牛 繁殖 26 頭、牧草地 7.0 ha、作業受託約 9 ha を家族で経営している。

②課題等

- 周辺農家の高齢化の影響により、伯耆町内外（米子市、南部町）からの受託作業の依頼が増え経営面積が拡大しているが、圃場が点在し作業効率の悪さがみられる。
- 繁殖成績を上げるには牧草収穫を適期に行う必要がある。長男、次男とも親元で就農し経営体制は整いつつあるものの、現在所有している機械だけでは作業能力や台数が不足している状態であり、また牧草収穫と水稻春作業の時期が重なるため適期の作業が出来ない。
- 米のさらなる品質向上を目指し、顧客の信頼を今よりも高める必要がある。

遠藤農園 経営の概要

		平成24年 (実績)	平成25年	平成26年	平成27年
水 稲 (ha)		21.0	21.5	23.0	27.0
飼料用稻 (ha)		1.5	2.5	3.0	5.0
和牛繁殖 (頭)		26	29	32	35
牧 草 地 (ha)		7.0	7.0	7.0	7.0
白ネギ (ha)		—	0.6	0.6	1.0
受託作業	代かき (ha)	1.0	2.0	2.5	3.0
	稲刈り (ha)	6.0	6.0	8.0	10.0
	畔塗り (m)	1,000	1,000	1,000	1,000
	乾燥調整 (ha)	2.0	2.0	3.0	5.0

遠藤農園 現有の主な機械、施設

名称	能力	台数等	備考
トラクター	46ps	1台	
"	64ps	1台	H16 チャレンジプラン事業で導入
田植機	6条	1台	
コンバイン	4条	1台	
米乾燥機	24石	1台	
"	28石	1台	
"	52石	1台	リース
糲すり機		2台	
米選別機		1台	
畦塗り機		1台	
保冷庫		1台	
育苗機		1台	
播種機		1台	
マニュアスプレッダー		1台	
テッダーレーキ		1台	
モアー		1台	
ロールベーラー		1台	
作業場		1台	
牛舎		3棟	
繁殖牛		26頭	

【2】 目標

大型機械を導入することにより、水田受託面積の拡大、畜産部門の拡充を行い、経営改善目標を達成する。また、町内の飼料用稻生産組合の一員として畜産農家へ良質な飼料供給、耕種農家への堆肥の供給という形で耕畜連携を推進していく。

さらに、飼料用稻の面積拡大により不耕作地の減少に努力していきたい。

- ①安定した農業収入を確保するために、長男・次男と共に農業経営の規模拡大を図る。
- ②水田の耕作が出来なくなった農家からの受託に応え、地域の水田を守る。
- ③現在所有しているトラクターと併用し大型機械を導入し作業効率を向上させる。
- ④畜産部門を拡充し、経営の安定化を図る。
- ⑤町内の転作作物として定着しつつある飼料用稻の栽培面積を拡大させ、また、飼料用稻生産組合の一員として耕畜連携に協力し荒廃地の減少に向け努力する。
- ⑥家族間で協議の場を設け、各部門が効率よく経営できるような協力体制を整備する。
- ⑦米の品質向上を図り、顧客からの今以上の信頼を得る。

【3】 具体的な取組

- ①大型トラクター、乗用田植機、乾燥機等の機械を増台することにより作業能率を上げ、受託及び経営面積の拡大を図る。
- ②大型コンバインを導入して作業効率を上げることにより刈取りを適期に行い、また色彩選別機を導入し米の品質向上を図る。
- ③クローラートラクターを導入して湿田での作業効率の向上を図る。
- ④臨時雇用を雇い入れることにより機械作業に集中する時間を確保し、作業効率の向上を図る。
- ⑤地域の実情に応じ、飼料用稻の作付け作業を受託する。
- ⑥繁殖牛及び肥育牛の増頭や野菜（白ネギ）の作付けに取り組み、経営の安定化を図る。
- ⑦勤務形態等について、家族内での協議の場を設ける。
- ⑧圃場を提供して野菜作りの苦労、喜びを体験してもらうなどイベント等を通じて鳥取大学医学部の学生と集落ぐるみの交流を推進し、集落のさらなる活性化を図る。

年間の機械作業計画

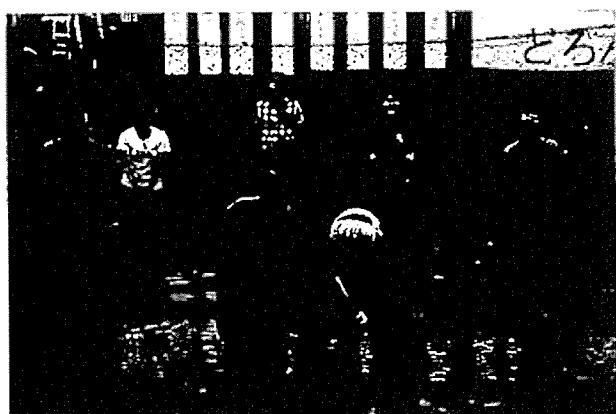
		3月			4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月		
	作業内容	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下			
【水稲】	堆肥散布	↔																																
	耕耘	↔																																
	畔めり	↓																																
	代かき																																	
	田植え																																	
	コハバ刈取穂																																	
	稲わら梶包																																	
	乾燥・調製																																	
【飼料イネ】	堆肥散布	↑																																
	耕耘	↔																																
	畔めり	↑																																
	代かき	↑																																
	田植え	↑																																
【牧草】	堆肥散布	↑																																
	肥料散布	↔																																
	収穫、梶包	↑																																
【白ネギ】	耕耘	↔																																
	耕耘	◆																																
	定植	★																																
	中耕・土寄せ	★																																
【受託作業】	畔めり	↔																																
	代かき	↔																																
	コハバ刈取穂	↔																																
	乾燥・調製	↔																																

【4】 効果

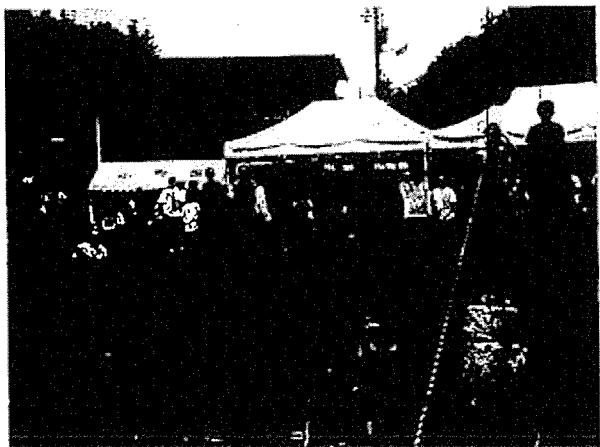
- ①耕作が出来なくなった農家から農地を受託することで、耕作放棄地の減少、農地が保全される。
- ②堆肥を水田に投入することにより化学肥料を減らし、経費が削減される。
- ③米の品質を向上させることにより所得増を実現させる。
- ④飼料用稻生産組合を通じて耕畜連携を確立し、餌の地産地消、堆肥の水田還元に協力ができる。
- ⑤勤務形態等について協議をすることにより効率的な作業につながり、家族が気持ちよく農業に従事することができる
- ⑥若い後継者の就農や学生との交流により地域が活性化する。

長男・次男と本人

若い後継者の就農により地域の活性化が期待される



集落「どろんこソフトバレー大会」
学生との交流により地域の活性化が促進される



【5】 役割分担

	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	備考
トラクター	◎					県・町・本人
色彩選別機	◎					県・町・本人
乾燥機		◎				県・町・本人
コンバイン		◎				県・町・本人
乗用田植機			◎			県・町・本人
クローラー トラクター			◎			県・町・本人
繁殖牛・肥育牛 導入	○	○	○	○	○	本人
家族協議			○			本人
集落活性化	○	○	○	○	○	本人・集落

◎ : がんばる農家プラン事業を利用した取り組み

○ : 個人での取組

【6】支援事業の内容

種目・項目	事業費（円）			備考
	平成25年	平成26年	平成27年	
トラクター	6,233,333			83ps
色彩選別機	3,759,000			6インチ
乾燥機		2,457,000		65石
コンバイン		10,588,600		5条
乗用田植機			3,840,000	8条
クローラー トラクター			6,241,000	53ps
合計	10,760,333	13,045,600	10,081,000	

負担区分 ・・・ 県：1／3 町：1／6 本人：1／2

トランクタ一利用計画(平成27年度)